

聖霊の働き

ヨハネによる福音書 16:12-15

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

説教

いまからきょうの礼拝説教をはじめます、ってわざわざ断ることもないぐらいに、礼拝ではみことばを朗読した後に、解説というか、お説教というか、なにかしゃべるといふ形はキリスト教礼拝では定着しています。とはいっても、ぜんぜんおしゃべりのない礼拝もあり、またぎゃくに、ただ説教者がしゃべるだけっていうような礼拝もあります。じゃ礼拝ってなによ、いったいなにを礼拝しているのか？もちろん神を礼拝しているわけです。でもキリスト教の場合はちょっとそこがややこしくなっています。神とはなんぞや、神とは誰かということが、普通に考える一神教の理解の仕方とは違ってキリスト教の神は三位一体の神です。神はただ一つですが、そこには三つの位格があるという理解をしています。父・子・聖霊なる神という言い方になります。そのややこしさが礼拝や説教を複雑にしているのかもしれない。たとえば、儒教なら「子曰く（しのたまわく、しいわく）」ではじまる（子とは孔子のことです）論語の一説を購読して、そのあとはその言葉の解説をして講話は完了します。賛美もなし、お祈りもなし、すっきりしています、シンプルです。

でもある見方からすれば、祈りもないのだからこれは宗教じゃないよっとなります。それもそうです。それじゃあただのこうるさい説教って話です。キリスト教では神のことを、主とか、父よとか、イエスさまとかいいます。でも不思議なことに、あまり聖霊さまという言い方はしません。聖霊はあまりなじみのない神の呼び名です。

さいきんのはやりにパワースポットというのがあります。日々の仕事にお疲れ気味の人が、週末に霊力あたたかな場所にいった癒される所を指してパワースポットっていつているようです。その場所には霊的なものがあって、そこ場所に足を運ぶとその霊的なものが自分に対してよい影響を与えると期待しているのだとおもいます。キリスト教の場合にも似たような期待はあって、ひらたくいえば、礼拝参加者がいい主日礼拝だったと感想をもてば、その礼拝、集会には聖霊が働いたのだという見方です。じゃ、どこがよかったのってなると、ある人は聖餐式であったり、ある人は賛美歌であったり、ある人は説教だったり、その他いろいろ、まちまちです。そして、先週の礼拝がいい礼拝だったから今週もと期待してでかけるとアララ、とかトホホとか、肩透かしをくらうこともよくあります。

言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。 16:12
きょうのみことばはこう始まります。そのあとにイエスは「真理の霊」とキリストと神の三者の関係を暗示的に語ります。この暗示をキリスト教神学は聖霊はどこから生じたのかというテーマとしてもとらえます。神から生じた聖霊（同時に、神から生じたキリスト）という見方と神とキリストから生じた聖霊という見方が神学論争となりました。どっちでもいい話とってしまえばそれまでなのですが、理解するために混乱をまねくということはよくあることです。なにかをほんとうに深い意味で理解しようとするれば、よいことばかりではなくて、悪いこともおきます。「聖霊は神から生じたのか、それともキリ

ストからなのか」という問いは神を深く理解するとために発せらる問いですが、そのために悪いことがおきてしまった、といまの時点の歴史書、教会史には書いてあります。それは東西教会の分裂の表向きの理由のひとつとしての共通認識があり、その影がキリスト教をふかく覆っているからだとなわたしは考えています。聖霊理解に関する論争が教会の分裂をまねいた、霊による一致ではなく霊によって分裂してしまった、という説明されることが多いのです。

これが (わたしの) 運命とつづやくときがあります。

もちろん善いことがおこったときにそうつづやくこともあるでしょうでも、たいていは自分に不都合な出来事、悪いことに対してつづやきます。また運命は個人のうえにおきる出来事だけでなく、共同体におきる出来事、地域におきる出来事でもあります。(最近の時事問題でいえば、九州の地震や沖縄の殺人事件)
Aさんは自分のうえにおきた不幸な出来事を試練ととらえるかもしれません。Bさんは悪い運命ととらえるかもしれません。試練と考えるか、悪と考えるかはそれぞれの立場や事情もあるでしょう。考え方一つで、受け止め方のやり方で、その人の上におきた出来事が変わるのだとはわたしは思いません。前向きに受け止めるか、後ろ向きにとらえるかで状況が変わるのだ、というのは精神論です。それもていどの低い精神論だとも思うからです。聖書ではどのような見方をしているのでしょうか。

しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。16:13

続けて、みことばはこう語ります。わたしたちが神を信じていれば「その方」が来ることを信じることができます。「今、あなたがたには理解できない」とイエスがいうことばをそのまま受け入れることができれば「真理の霊

が来る」ことを信じ「悟り」を待つことができます。そして「これから起きること」が告げられます。わたしたちは約束された「これから起きること」に期待できるのではないのでしょうか。もちろん神を信じるということは「善き神」を信じることが前提にあります。そして神を深く知ることができるとすれば、わたしにとって都合のいい神さまばかりではないことも知ることになるかもしれません。それでもイエスはこう約束されました。

言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。16:12-13

主の守りと慈しみがわたしたちのうえにありますように。